

オセアニア教育学会 第15回大会プログラム

会期：2011（平成23）年11月26日（土）

会場：筑波大学筑波キャンパス

人間系学系棟（B棟5階）

オセアニア教育学会第15回大会実行委員会

共催：筑波大学人間総合科学研究科（教育学系）

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系（教育学系）

オセアニア教育学会第15回大会実行委員会（委員長：佐藤博志）

Tel 029-853-6743（研究室直通）

h-sato@human.tsukuba.ac.jp

大会参加要領

1. 受付

11月26日（土）11:40より人間学系棟B棟5階ロビー（エレベーター前）

2. 大会参加費・懇親会費

大会参加費は2000円です。

懇親会費は4000円です。

3. 昼食

26日（土）は学食（会場より徒歩2分程度）が営業しております。場所はスタッフにお尋ね下さい。

4. 交通案内

（1）秋葉原駅からつくば駅まで、つくばエクスプレス(TX)快速電車で45分です。

TXのHP <http://www.mir.co.jp/timetable/index.html>

（2）つくば駅から筑波大学中央バス停へ 15分～20分

TXつくば駅（つくばセンターバスターミナル）より、

関東鉄道バス「筑波大学循環（左回り）」または「筑波大学中央行」にご乗車いただき、筑波大学中央バス停にお越しください。

バス時刻表 <http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/timetable/center/06.pdf>

バス時刻表（大学循環） <http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/timetable/tc/02.pdf>

（3）筑波大学中央バス停から人間学系棟（会場）へ 徒歩3分

大学HP キャンパス内アクセスマップ中地区J7

http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html

（*交通等の図を後掲しました。）

5. 宿泊について

大会実行委員会として特に宿泊施設を手配することは致しません。ご了承ください。

インターネットで「つくば駅 ホテル」で検索いただくと、情報が得られます。

つくば駅付近のホテルが満室の場合は、旅行日程や交通機関の乗換を考慮して、TXつくばエクスプレス沿線あるいは都区内のホテルを探してみることも一案かと存じます。

6. 大会本部

大会本部は人間系学系棟B棟5階小会議室（自由研究発表・シンポジウム会場の大会議室の向かい側）です。大会当日、不明な点がございましたら、スタッフにご質問ください。

7. 緊急連絡

発表者等による大会当日の緊急連絡は、h-sato@human.tsukuba.ac.jp にメールをお送り下さい。このアドレスへのメールは大会実行委員長の携帯電話に転送されるようになっております。電話の場合は、029-853-6743（研究室直通、留守電あり）にご連絡ください。

自由研究発表要領

- 発表時間：口頭発表20分・質疑5分（計25分）です。
- 発表に必要な配布資料は、各自50部ご用意いただき、大会当日ご持参下さい。なお会場ではコピーはできませんのでご承知おきください。パワーポイントを使用できるように、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーンを会場に準備いたします。
- 発表者がやむを得ない事情により欠席する場合には、発表時間・発表順序の繰り上げは行わず、司会者の判断により、休憩または討議の時間にあてます。

シンポジウム報告者等の方へ

- 報告時間：報告者 20 分，指定討論者 20 分です。
- 発表に必要な配布資料は、各自50部ご用意いただき、大会当日ご持参下さい。なお会場ではコピーはできませんのでご承知おきください。パワーポイントを使用できるように、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーンを会場に準備いたします。

大会・懇親会参加者数把握についてのお願い

大会に参加を希望される方は

①氏名・ご所属

②懇親会の出欠（A 懇親会出席，B 懇親会欠席 いずれかを選択）

のご予定を h-sato@human.tsukuba.ac.jp に11月12日までにメールでご連絡ください。ファックスの場合は、029-853-6619（事務室ファックス専用）にお願いいたします。大会に不参加の場合、メール返信・ファックス送付は必要ありません。これは、参加者数の概数を把握するためのものです。11月12日までに返信されなかった場合も、大会当日の急な参加は可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

交通のご案内

行き

(1) 秋葉原駅→つくば駅 45分(快速)

つくばエクスプレス(TX)「つくば行き」

(快速は1時間に2本です。区間快速も1時間に2本あります。)

(2) つくば駅→筑波大学中央バス停 15分～20分

関東鉄道バス「筑波大学循環(左回り)」または「筑波大学中央行き」

(「筑波大学循環(右回り)」も筑波大学中央に行きますが遠回りのため時間がかかります。)

(3) 筑波大学中央バス停→人間系学系棟(会場) 徒歩3分

帰り

(1) 人間系学系棟(会場)→筑波大学中央バス停 徒歩3分

(2) 筑波大学中央バス停→つくば駅 15分～20分

関東鉄道バス「筑波大学循環(右回り)」または「土浦駅行き」「荒川沖駅行き」「ひたち野うしく駅行き」

(「土浦駅行き」「荒川沖駅行き」「ひたち野うしく駅行き」はすべて、つくば駅経由です。)

(「筑波大学循環(左回り)」も、つくば駅に行きますが遠回りのため時間がかかります。)

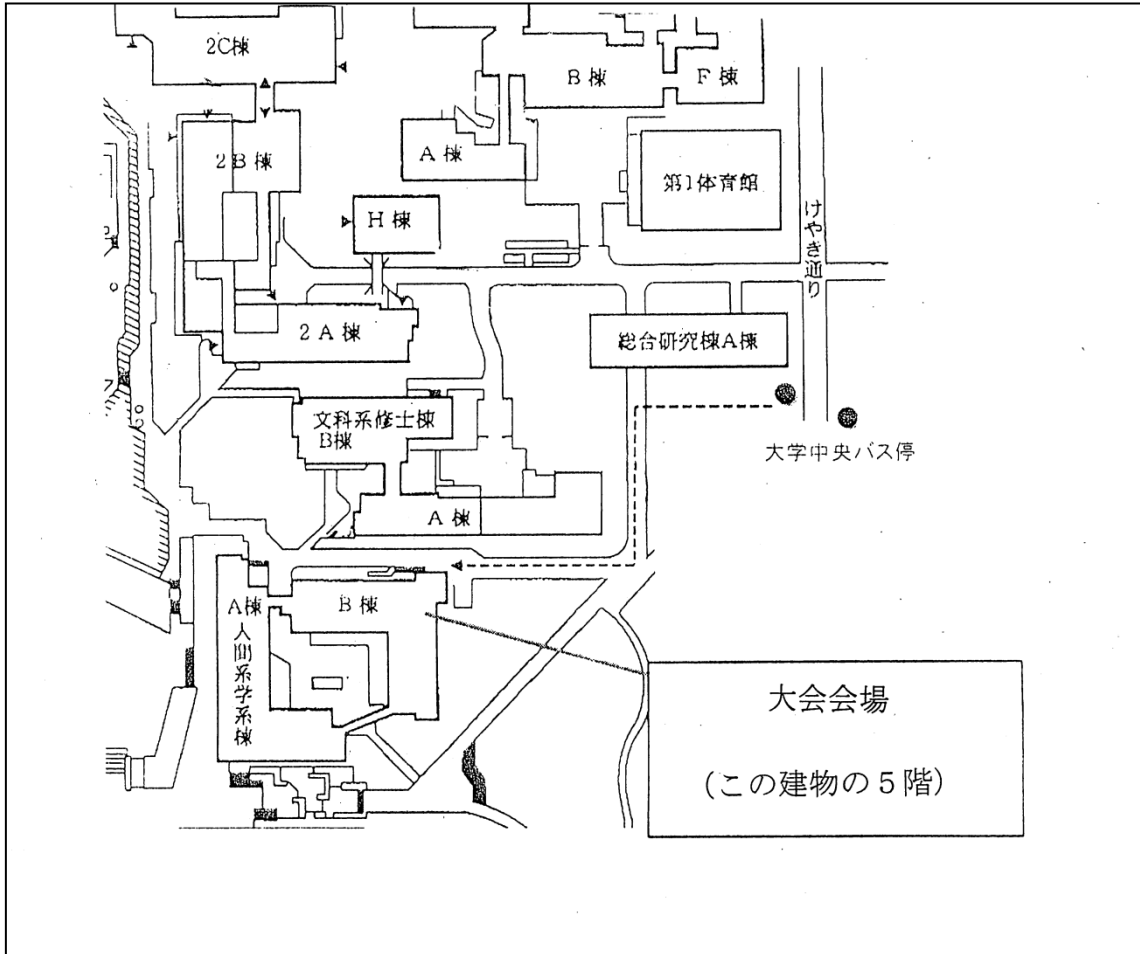
(3) つくば駅→秋葉原駅 45分(快速)

つくばエクスプレス(TX)「秋葉原行き」

(快速は1時間に2本です。区間快速も1時間に2本あります)

大会会場配置図

(筑波大学中央バス停～会場：人間系学系棟B棟)



プログラム

11月26日(土)

10:00~11:00	紀要編集委員会 図書プロジェクト	大会議室 B501	人間系学系棟 B 棟 5 階 同上
11:00~11:50	理事会	B501	人間系学系棟 B 棟 5 階
11:40	受付開始	5階エレベーター前	人間系学系棟 B 棟 5 階

12:30~14:30 自由研究発表 大会議室

司会 杉本和弘(東北大学)

12:30~12:55

日米豪の留学生受入れによる経済便益と支援体制の比較

佐藤由利子(東京工業大学)

12:55~13:20

ニュージーランドにおける教員のパフォーマンス・マネジメントの理論と構造

高橋望(日本学術振興会特別研究員)

13:20~13:45

オーストラリアにおける幼年期リテラシー教育の検討

竹川慎哉(中部大学)

13:45~14:10

スローラーナーに有用な「コーチング力」に関する一考察

—オーストラリアの教室からの学びを取り入れた実践を通して—

中澤加代(四国学院大学)

14:10~14:30

全体討議

14:40~17:00 シンポジウム 大会議室

司会 佐藤博志（筑波大学）

朝水宗彦（山口大学）

オーストラリアの多文化教育研究の立場から

馬淵仁（大阪女学院大学）

オーストラリアの教育行政研究の立場から

伊井義人（藤女子大学）

ニュージーランドの社会科教育研究の立場から

井田仁康（筑波大学）

指定討論：社会学者から見たコメント—方法論を中心に—

岡本智周（筑波大学）

17:10~18:00 総会 大会議室

18:10~20:00 懇親会 大会議室

（* 懇親会：楽しい時間にしたいと思っております。ぜひご参加ください。）

（* 大学中央バス停発，大学循環右回り TX つくば駅行きは 20:15 です。）

オセアニア教育研究のこれから —研究方法をめぐって—

オセアニア地域の教育の研究は、論文数や書籍を見ると、ここ10年間に発展してきている。とくに、20年前と比べると飛躍的に発展している。しかし、発展してきた中で、固有の課題があるのではないだろうか。

第一に、英米等の教育の研究に比べて、国内における先行研究の少なさがあげられる。国内で、研究をまとめる時に、オリジナリティの確保や議論を展開する時に、難しさがあるだろう。オリジナリティの確保や議論の展開において、どのような課題、克服方法があるだろうか。

第二に、外国における先行研究の少なさや位置づけに曖昧さと可能性がある。オーストラリア、ニュージーランドは英語圏とはいえ、研究者数が少なく、英米のような国際的な研究動向の中心とは言い難い。研究の位置づけは、曖昧であるが、逆にそこに可能性があるとも考えられる。可能性があるとするれば、どのような位置づけ方があるだろうか。

今日、以上のような課題をふまえて、研究方法について議論しておくことは、極めて重要だろう。研究そのものの発展や研究者層の増加など、学会として次の展開を考える時に来ているからである。とはいえ、このようなテーマを設定する場合、次のいくつかの次元とそれに伴う多様性を考慮する必要があるだろう。

第一に、対象地域による研究方法の違いがある。オセアニア地域といっても、オーストラリア、ニュージーランドとパプアニューギニア、太平洋諸島では、対象の国や教育制度・政策の状況、社会背景に大きな違いがある。また、オーストラリアとニュージーランドの間にも、相違があり、さらには、オーストラリアでも州・直轄区間での違いがある。それぞれの地域で、研究調査を進める際に、固有の課題や方法があるだろう。

第二に、主たるテーマ・専門分野・学問的アイデンティティによる違いがある。オーストラリアを対象にしている場合でも、教育制度全体を研究する場合と、先住民の教育を研究する場合では、スタンスや方法、考察の仕方に違いが出てくるだろう。また、母体となる学問分野を、たとえば、教育経営学や教育方法学に置く場合、当該の学問分野の動向、概念、調査法も考慮しなければならない。結果、オセアニア地域の教育を対象にした研究に広がりや多様性が出てくるだろう。相互理解の難しさも生じるかもしれないが、学び合えることも増えるだろう。

第三に、研究方法をめぐって、キャリアによるニーズの違いがあるだろう。ここで、キャリアとは、研究経験の多少を意味し、それに伴って、研究環境、当面の目標、調査法を含む研究方法の違いが生じてくる。研究を展開し、成熟度を高めるためには、たしかに、

キャリアが重要である。だが、一方で、若手だからこそ、新たな発想や着眼点の手がかりを持っている場合もある。異なる研究キャリア間で、意見や情報、問題意識を交流することは、研究の発展に有効であり、刺激となるだろう。

以上の問題意識から、本シンポジウムでは、下記のような報告者に登壇いただく。そして、各報告者の「①対象地域、テーマ・専門・学問的アイデンティティ、キャリア、②研究方法（調査法を含む）の特徴と学術的成果（知見）の紹介、③個人研究の展望とオセアニア教育研究全体（学会を含む）への示唆」を共通の視点として、オセアニア教育研究の現在と未来について横断的に議論する。今回は特に、研究方法論に詳しい岡本智周准教授をお招きして、コメントをいただく予定である。そして、何らかの知見や示唆を共有し、オセアニア教育研究の未来を切り開くことができればと思っている。

司会 佐藤博志（筑波大学）
朝水宗彦（山口大学）

オーストラリアの多文化教育研究の立場から

馬淵仁（大阪女学院大学）

オーストラリアの教育行政研究の立場から

伊井義人（藤女子大学）

ニュージーランドの社会科教育研究の立場から

井田仁康（筑波大学）

指定討論；社会学者から見たコメント—方法論を中心に—

岡本智周（筑波大学）

<指定討論者（会員外より招へい）：岡本智周准教授のご紹介>

早稲田大学第一文学部卒業，同大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了，ニューヨーク市立大学クイーンズ校大学院応用社会学専攻修士課程修了，早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程修了。早稲田大学国際教育センター助手，日本学術振興会特別研究員を経て，2005年より筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授。研究分野：教育社会学，共生社会学，ナショナリズム研究，共生社会研究。著書：『国民史の変貌—日米歴史教科書とグローバル時代のナショナリズム』日本評論社，2001年，『歴史教科書にみるアメリカ—共生社会への道程』学文社，2008年。『共生と希望の教育学』岡本智周・田中統治編，筑波大学出版会，2011年，ほか著書・論文多数。

オセアニア教育学会第 15 回大会実行委員会

委員長	佐藤 博志	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
委員	川口有美子	筑波大学大学院人間総合科学研究科特任研究員
委員	張 揚	筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士後期課程教育基礎学専攻院生
委員	Cakir Murat	筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士後期課程教育基礎学専攻院生
委員	吉田ちひろ	筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士後期課程教育基礎学専攻院生
委員	小嶋ともこ	筑波大学大学院修士課程教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻院生
顧問	井田 仁康	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授・ 博士前期課程教育学専攻長
